

指定管理者制度導入施設評価票

評価対象年度	令和6年度		
施設名	秋田県立男鹿水族館	設置年	平成 16 年
所在地	男鹿市戸賀塩浜字壺ヶ沢93番地先		
指定管理者	株式会社男鹿水族館		
県所管課	観光戦略	課	観光地域マネジメント推進 チーム

1 施設の概要

設置目的	魚や海獣のふれあいを通じ自然保護や地球環境に対する知識と意識を深めるとともに、生涯学習の場を提供し、観光レクリエーション活動の為の利便の増進を図るほか、県内外の交流を促進することで地域の活性化を図る。					
県の施策上の施設の位置付け	新秋田元気創造プランや各分野の個別計画等における施設の位置付け・目標					
	人口減少の進行やデジタル技術の進展等のほか、コロナ禍により旅行ニーズの個人化・個性化が一層強まるなど、観光を取り巻く環境が大きく変化している中、自立した稼ぐ観光エリアの形成に向けた地域観光の中核施設					
	新秋田元気創造プランや各分野の個別計画等における目標を達成するための取組として施設に求められているもの					
	多様な海洋生物の展示及び生涯学習の場の提供					
施設の面積	敷地面積12,470.86㎡、延床面積9,274.90㎡					
主な設置施設	水族館					
指定管理業務の内容	料金制	有（利用料金併用制）				
	料金設定	別紙				
	サウンディング実施対象施設※	○				
	指定期間	R6.4.1		～		R16.3.31
	営業期間・時間	通年(ただしメンテナンス休館あり) 3～10月 9:00～17:00、11～2月 9:00～16:00				
	秋田県立男鹿水族館に関する次の業務 ①管理運営業務②施設維持管理業務③企画運営業務④事務処理業務 ⑤魚、海獣等の飼育に関する業務					
自主事業の内容	各種企画展およびイベントの開催					
直近3年の年間利用者数	R4	207,040 人		R5	182,635 人	
直近3年の年間利用収入	R4	144,402 千円		R5	150,184 千円	
直近5年の収支決算(単位:千円)		R2	R3	R4	R5	R6
収入 計		298,836	346,326	395,836	370,983	390,476
利用料金収入		94,073	120,516	144,402	150,184	148,318
指定管理料		95,699	88,156	80,223	80,223	88,229
その他収入		109,064	137,654	171,211	140,576	153,929
支出 計		300,018	345,927	390,511	378,552	389,362
人件費		100,198	103,883	109,028	119,176	121,303
光熱水費		61,473	71,353	95,301	92,349	89,910
修繕費		7,984	10,764	12,256	12,091	8,517
外部委託費		24,753	25,160	24,461	21,906	26,894
その他経費		105,610	134,767	149,465	133,030	142,738
差 引		▲ 1,182	399	5,325	▲ 7,569	1,114

※単年度維持管理・運営費が1億円以上の公募施設について、民間事業者の意見を参考に運営手法や公募要件を検討するため、指定期間終了の3年前にサウンディング(官民対話)を実施する。

2 観点ごとの評価

＜観点Ⅰ＞ 施設の設置目的（施設の目指す姿）の達成に関する取組

【ポイント】

施設の設置目的(施設の目指す姿)を達成するための取組がなされ、その効果があったか。

○指定期間における運営方針・施設の利用目標

魚、海獣等との触れ合いを通じた学習の機会を提供し、並びに県民の自然保護及び地球環境保全についての理解を深めるとともに、観光レクリエーション活動のための利便の増進を図るという施設の設置目的を達成するため、生態の繁殖などに関する科学的知見の積上げを図るとともに、それらについての情報発信の強化や教育利用の安定的な獲得に取り組むほか、各種催事の開催等により施設の利用促進に努め、男鹿地域全体への誘客に寄与する。

○目標の設定(毎年度、県と指定管理者が協議の上、業務計画書に定める目標)

令和6年度の目標	有料入館者数 165,000人
----------	-----------------

○指定管理者による実績報告

令和6年度の実績	実績	143,872人	達成率	87.2%	
	具体的な取組とその効果	開業20周年に伴う企画設定、宣伝展開、プレスリリースによるパブリシティ強化など誘客促進に努めたが、入館者の大きな増には至らなかった。一方で、教育旅行関係の利用については前年比108.4%と伸びたほか、県と連携した冬期キャンペーンにおいてアザラシ飼育体験などの新規体験プラン等を販売したところ、多くの利用があった。			
直近3年の実績	年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	目標	147,000人	165,000人	165,000人	
	実績	143,855人	170,360人	149,020人	
	達成率	97.9%	103.2%	90.3%	
令和7年度の目標 (設定根拠)	目標	有料入館者数 165,000人			
	設定根拠	昨年度と同様の目標を設定した。 豪太来館20周年の話題提供やSNS等による情報発信、地域との連携、催事・イベントの充実に加え、教育旅行の誘致促進に向けた取組を実施し、目標達成を目指す。			

※指標が複数ある場合は欄を適宜追加すること。

＜観点Ⅰ＞の評価

評価欄	評価者	評価	コメント
	指定管理者	B	多目的ホールを教育旅行や校外学習利用者へ積極的にPRし利用率の向上に努めた。学校利用のない日はイベントの開催、団体の食事場所提供など幅広く活用を提供し利便性の向上を図った。
	県(所管課)	B	各種取組の展開に努めているものの、有料入館者数は前年度から減少しているため、一層の利用促進に努める必要がある。

【評価基準】次の基準により評価。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。
また、施設の設置目的(施設の目指す姿)を達成するための、指定期間における運営方針・施設の利用目標について、指定期間開始年度から評価対象年度までの達成状況をコメント欄に記載すること。

A: 目標達成(数値目標の場合は100%以上)

B: A及びC以外

C: 目標達成に向けて改善が必要(数値目標の場合は80%未満)

＜観点Ⅱ＞ 施設の有効性（利用者の満足度）の向上に関する取組

【ポイント】

サービスの質を維持・向上するための具体的な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

利用者満足度 令和6年度 の実績	実績	94.0%(利用者アンケートによる)		
	具体的な 取組と その効果	開館20周年に伴う企画展の開催、各種イベントの充実を図り、満足度向上に努めている。また、利用者アンケートでお客様の声を収集し社内で共有している。		
利用者満足度 の状況 (直近3年)	R3年度	R4年度	R5年度	
	88.5%	89.2%	90.4%	

＜観点Ⅱ＞の評価

評価欄	評価者	評価	コメント
	指定管理者	A	県の冬期誘客キャンペーンに参画し、ふれあい体験、飼育員体験、バックヤード体験等の充実を図った。海洋高校との連携メニューも好評であった。
	県 (所管課)	A	利用者の満足度向上に寄与した取組を展開できている。

【評価基準】次の基準により評価を行う。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

A:満足度80%以上 B:A及びC以外 C:満足度60%未満

＜観点Ⅲ＞ 効率性の向上等に関する取組

(1)経費の低減

【ポイント】

施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

令和6年度 の実績	経費の 低減実績	R6年度経費389,362千円(対前年度比102.8%、+10,810千円)
	具体的な 取組と その効果	水道光熱費は契約電力の見直し、節電等による使用量の削減にも努めた。修繕関係は部品を購入して内製化で修理するなどのコスト削減を行っている。

※費用の総額では効果が計れない場合は、例えば利用者1人当たりの単価を算出する方法等も考えられる。

(2)収入の増加 ※指定管理料制施設を除く

【ポイント】

収入を増加するための具体的な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

令和6年度 の実績	収入の 増加実績	R6年度収入390,476千円(対前年度比105.3%、+19,485千円)
	具体的な 取組と その効果	売店部門は20周年オリジナル商品の開発、通信販売を強化した。レストラン部門は販売価格の見直しや海洋高校との連携メニューを販売するなど話題性の向上を図り利用者増に繋がった。

＜観点Ⅲ＞の評価

評価欄	評価者	評価	コメント
	指定管理者	B	人件費、物価の高騰等により、全体的に仕入れ経費が増える環境の中、生物購入費や飼料、医療費などの削減を行った。また、売店、レストラン部門においては適切な価格転嫁を行った。
	県 (所管課)	B	利用料金収入が伸び悩んでいるものの、売店部門やレストラン部門では増収が見られた。また、維持管理費が増加傾向にある中で、水道光熱費や電気料金の削減など、各種経費の節減に努めている。

【評価基準】 次の基準により評価を行う。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

A: (1)経費の低減、(2)収入の増加とも前年比で5%以上改善

B: A、C以外

C: (1)経費の低減、(2)収入の増加とも前年比で5%以上悪化

＜観点Ⅳ＞ 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組

【ポイント】

施設の管理運営（指定管理業務）の適切な実施に向けた具体的な取組がなされ、その効果があったか

○指定管理者による実績報告

令和6年度 の実績	○運営面 ・安全・安心を前提にマニュアルを順守した施設運営を行い大きな事故なく終える事ができた。 ○営業面 ・開業20周年に伴う企画設定を積極的に行いSNSや報道機関への情報発信を強化し来場者の獲得に努めた。 ・教育旅行・校外学習については2,818名の実績となり前年比108.4%となっている。県の観光連盟、男鹿市DMO等と協調し北海道の教育旅行の誘致活動を行った。県内の校外学習については多目的ホールのPRやセールス活動を強化した。 ・閑散期となる冬期は県のキャンペーンに参画し体験型の高額商品の販売を行い売上増に繋がった。お客様の評価も高くCS向上に繋がった。 ・レストランでは男鹿海洋高校と連携したメニューを増やし更なる話題性の向上、地産地消への貢献、売上増に繋がった。 ・売店ではオリジナル商品の開発、スタッフ考案グッズの販売、通信販売の強化により売上増に繋がった。 ○安全教育、社員研修 ・館内設備の安全教育、防災訓練など実施している。社外の学会・研修会への参加を推奨しており、参加費や旅費の一部を補助し、社員の知識習得を支援している。
--------------	---

＜観点Ⅳ＞の評価

評価欄	評価者	評価	コメント
	指定管理者	B	安全・安心を前提に利用者へ平等なサービスの提供を行い大きな問題は発生していない。
	県 (所管課)	B	開館20周年企画の実施や売店・レストラン部門の強化を図るなど、各種取組の展開に努めており、施設の管理運営に大きな問題点はないものの、入館者全体は減少傾向にあり、有料入館者数の大きな増加には至っていないため、一層の利用促進に努めていただきたい。

【評価基準】 A: 順調(改善点なし)、B: 概ね順調(重大な問題点なし)、C: 改善が必要(重大な問題点あり)

県(所管課)の評価においては、モニタリング結果を踏まえて評価を行う。

【県の施策達成に向けた県所管課の施設運営に対する考え方】

※全施設記載

○県の施策の達成状況(施設を運営することで、県の施策がどの程度達成されたか等)

男鹿地域の観光拠点の一つとして多くの観光客を集めており、男鹿地域全体への誘客にも寄与しているほか、教育旅行・校外学習等の教育利用も広く受け入れており、水生生物とのふれあいを通じた生涯学習の場を提供している。

○施設運営の課題

施設の経年劣化により、施設運営するために必要な修繕箇所が多発していることから、各種設備等の修繕を計画的に実行していく必要がある。

○今後の方向性(県の施策の達成状況や課題を踏まえて、今後所管課としてどのように対応していくか等)

利用者の安全や利便性の向上を図るための施設修繕を計画的に実施し、引き続き、男鹿地域の観光拠点施設として周辺地域への誘客を図る。

(14男鹿水族館) 指定管理者制度導入施設評価票 別紙(料金表)

男鹿水族館

区 分			利用料金の額	
普 通 料 金	小学校児童及び中学生生徒		1 人 1 回につき	500円
	一 般		1 人 1 回につき	1,300円
	福 祉	小学校児童及び中学生生徒	1 人 1 回につき	300円
		一 般	1 人 1 回につき	800円
	教 育	小学校児童及び中学生生徒	1 人 1 回につき	300円
	企 画	小学校児童及び中学生生徒	1 人 1 回につき	450円以下
		一 般	1 人 1 回につき	1,250円以下
定 期 券 (有効期間 1 年)	小学校児童及び中学生生徒		1 人につき	1,200円
	一 般		1 人につき	3,000円

備考

- 1 「小学校児童及び中学生生徒」には、これらの者に準ずる者を含む。
- 2 「福祉」の区分は、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳又は被爆者健康手帳を所持する者及びその者の付添人（1人に限る。）が、入館する場合に適用する。
- 3 「教育」の区分は、学校行事及び授業の一環として入館する小学校児童及び中学生生徒に適用する。
- 4 「企画」の区分は、企画商品の種類に応じて、表に定める金額の範囲内において指定管理者が別に定める。